

# 523 術中 Echo による子宮体癌の頸部進展, 筋層浸潤の検索

鹿児島大, 国立がんセンター\*  
堂園晴彦, 山田拓郎, 種村健二郎, 恒松隆一郎,\*  
近江和夫, 園田隆彦, 笠松達弘, 永田行博

〔目的〕子宮体癌の病巣進展, 特に頸部進展の有無, 筋層浸潤の程度を検討する目的で術中 Echo を施行した. 〔方法〕Echo は術中超音波診断装置 SSD-330 (アロカ社製, 7.5MHz) を用い, 開腹時腹腔内へ生食を満たし, 探触子を子宮より数 cm 離し画像を検索した. 加えて術中 Echo 所見と術後の病理組織学診断とを対比し検討した. 〔成績〕1. 正常子宮腔の前壁と後壁は Single line 状を呈し, その周囲には内膜の像としての Hypoechoic zone が存在する. 2. Single line 像は頸管まで連続して認められるのに対し, Hypoechoic zone は頸管部では認められなかった. 3. Single line 像の不整や消失は, 腫瘍の占居部位 (頸部進展など) を示唆するものであった. 4. 正常子宮筋層は moderate intensity echos で表わされる. 5. 筋層内に浸潤した癌は, 正常筋層より hypoechoic な像を呈し, この Echo レベルの差により筋層浸潤の程度を推測する事ができた. 〔結論〕本法は操作が容易であり, 従来の子宮鏡などに比して短時間で診断する事ができ, また非侵襲的で再現性に富んでいる事より, 今後積極的に用いられるべき方法である, と思われる.

# 524 超音波ドプラー法による婦人科腫瘍の血流動態評価に関する研究

島根医大  
秦 利之, 妹尾大作, 高宮 収, 村尾文規,  
北尾 学

〔目的〕超音波ドプラー法を用い, 婦人科腫瘍の血流動態を評価することを目的とした. 〔方法〕婦人科腫瘍における異常血流の有無を診断するために, 98 例の婦人に対してドプラー断層法及びパルスドプラー法を施行した. その内訳は, 正常婦人 8 例, 良性腫瘍 43 例, 絨毛性疾患 2 例, 子宮頸癌 36 例, 子宮内膜癌 4 例, 卵巣癌 5 例である. 膀胱充満法を用い, ドプラー断層法にて子宮, 卵巣, あるいは骨盤内腫瘍の血流を同定し, パルスドプラー法のサンプリングポイントを同部位に設定し, 血流速度波形をストリップチャートに記録した. ドプラー断層法にて血流が認められないときには, 拍動の認められる部位にサンプリングポイントを設定し, 血流速度波形を記録するようにした.

〔成績〕①正常婦人では異常血流は認められなかった. ②良性腫瘍では 43 例中 13 例 (30.2%) に異常血流が認められ, すべて子宮筋腫あるいは子宮腺筋症であり, 良性卵巣腫瘍では認められなかった. ③絨毛性疾患では 2 例とも異常血流が明瞭に認められた. ④子宮頸癌では 19 例 (52.8%) で血流が検出できず, 異常血流が認められた症例は 7 例 (19.4%) であった. ⑤子宮内膜癌では 3 例 (75%) に異常血流が認められた. ⑥卵巣癌ではすべて異常血流が認められた. ⑦悪性腫瘍では治療後に血流動態が大きく変化する症例が認められた. 〔結論〕婦人科腫瘍では各疾患ごとに血流動態の相違が認められることが明らかとなった. 超音波ドプラー法は無侵襲かつ繰り返し検査することができ, 婦人科腫瘍の血流動態の評価に有用であり, また悪性腫瘍の治療効果判定に使用できる可能性が得られた.